

令和6年度 予算のお知らせ

健康保険

経常収支で6億1,932万円の大幅な赤字予算となりました

● 予算編成の背景

急激な少子高齢化と医療技術の進展に伴い、国民医療費は増加の一途を辿り、それに伴い医療費を支払う健保組合の出費も年々上昇しています。令和4年度の国全体の概算医療費は、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、前年度比約1兆8千億円増、過去最高額の46兆円に達しています。なかでも高齢者の医療費の割合は大きく、全体の約4割を75歳以上の医療費が占めています。

現役世代が高齢者医療費を支えることは必要なことですが、現役世代の負担に過度に依拠する現行制度下では、現役世代の負担は増大する一方で、支える側の体力が限界に達する恐れがあります。2025年には、団塊の世代すべてが75歳以上の後期高齢者となることで、医療費のさらなる増大とともに、現役世代が高齢者医療制度のために拠出する納付金の増加が危惧されています。国民皆保険制度の持続性確保のためにも、負担能力に応じて公平に負担する全世代型社会保障制度への転換が急がれています。

● 予算の概要

令和6年度は保険料算出の基礎となる被保険

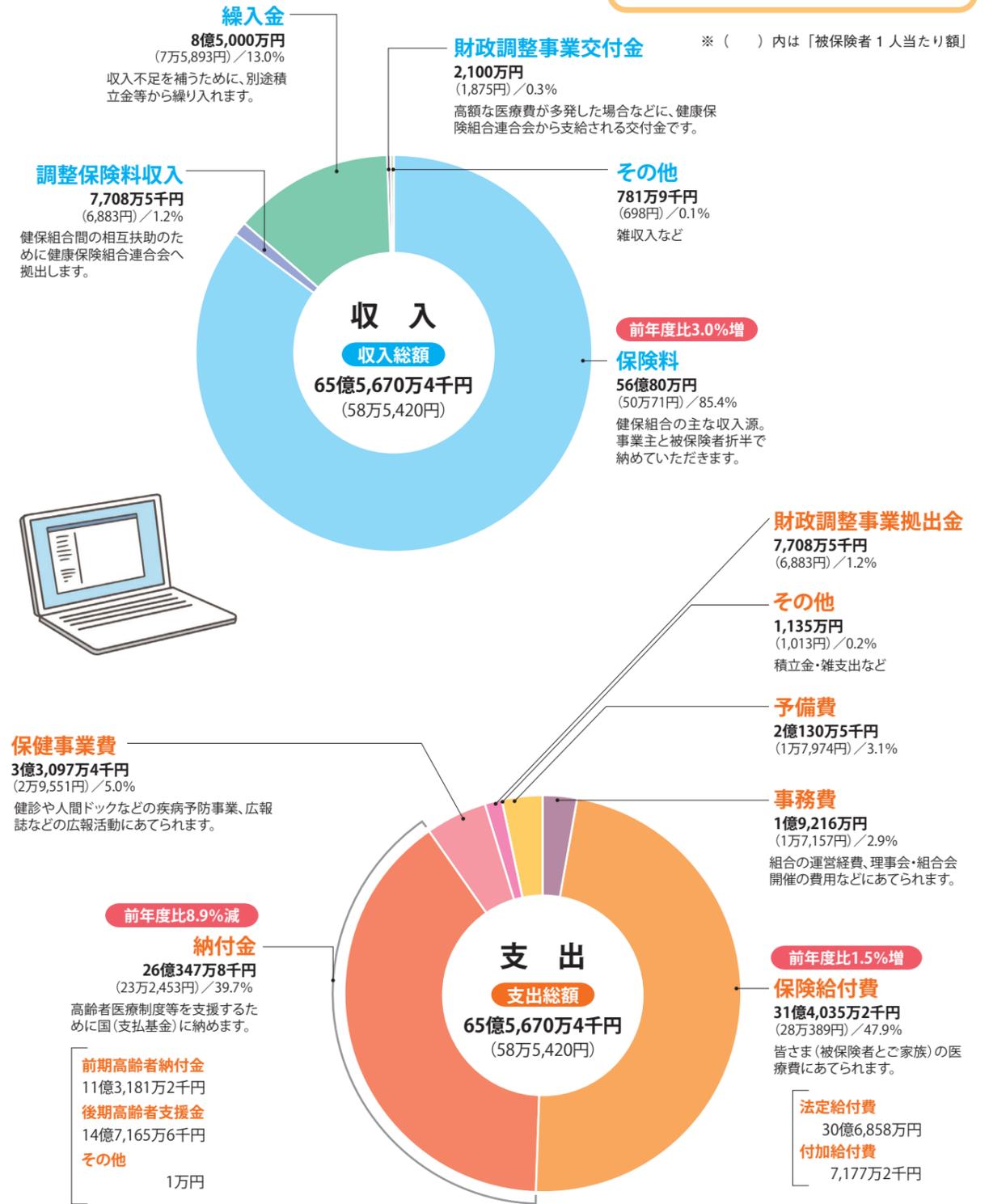
者数の増加、総標準賞与額の上昇が見込まれることから、保険料収入は前年度比3.0%増の56億80万円となる見込みです。

一方、主な支出では、被保険者・ご家族の医療費等である保険給付費が同1.5%増の31億4,035万円、高齢者医療制度を支えるための納付金が同8.9%減の26億348万円、被保険者・ご家族の健康づくりのための保健事業費が同1.3%増の3億3,097万円となる見込みです。

この結果、実質的な収支状況を示す経常収支は6億1,932万円の赤字となりますが、過去の剰余金である別途積立金から8億円を取り崩すことで収支の均衡を図り、令和6年度の保険料率は9.6%に据え置くことといたしました。

当健保組合におきましては、一層の事業の効率化と経費節減に努め、安定的な財政運営を図ってまいります。また、特定健診・特定保健指導の受診推進、ウォークラリーや禁煙支援事業など健康づくり事業を積極的に実施して加入者の皆さまの健康増進に努めてまいります。皆さまにおかれましては、日ごろの健康管理はもちろんのこと、病院へ受診される際はジェネリック医薬品をご活用いただくなど、医療費適正化にご協力くださいますようお願いいたします。

令和6年度
収入支出予算総額
65億5,670万4千円



介護保険

介護保険は、高齢者の介護をサポートする制度で、運営は市区町村により行われています。健保組合は、介護保険制度の財源となる介護保険料を国に代わって徴収し、国に納付しています。

健保組合では、毎年度、国から割り当てられる介護納付金を賄うのに必要な料率を算出して介護保険料率を決定しています。令和6年度は国に納める介護納付金6億3,972万円に対し、介護保険収入5億7,190万円を見込んでいます。収入不足が生じる見込みですが、準備金を繰り入れて補てんし、介護保険料率を引き上げることなく予算編成を行うことができました。

収入

科目	予算額(千円)	介護保険第2号被保険者1人当たり額(円)
介護保険収入	571,904	100,334
繰入金	100,000	17,544
雑収入	3	-
合計	671,907	117,878

支出

科目	予算額(千円)	介護保険第2号被保険者1人当たり額(円)
介護納付金	639,718	112,231
介護保険料還付金	1,000	175
積立金	1	-
予備費	31,188	5,472
合計	671,907	117,878